

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	24226021	研究期間	平成24年度～平成27年度
研究課題名	福島原発事故で発生した廃棄物の合理的な処理・処分システム構築に向けた基盤研究	研究代表者 (所属・職) <small>(平成28年3月現在)</small>	池田 泰久 (東京工業大学・原子炉工学研究所・教授)

【平成26年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○ A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、社会的要請が極めて大きい課題であり、福島原発事故で発生した汚染物の合理的な処理・処分システムの構築に向け、汚染物の性状評価から最終処分までの処理・処分システムの構築に向けた基盤研究を目的としている。研究開始以来、学会や国際会議での発表及び論文発表等を積極的に行っており、着実なデータの蓄積はなされていると判断する。今後は、固体・液体汚染物の具体的な処理・処分法も念頭に置き、総花的とならないように注意を払いながら、汚染物の性状研究、汚染物処理研究及び廃棄物の処分研究の3分野を有機的に連携させ、当初目的を達成するために効果的かつ効率的な研究の推進に期待する。

【平成28年度 検証結果】

検証結果	
A	<p>当初目標に対し、期待どおりの成果があった。</p> <p>本研究は、社会的要請が極めて大きい課題であり、福島原発事故で発生した汚染物の合理的な処理・処分システムの構築に向け、汚染物の性状評価、処理研究並びに廃棄物処分研究の3分野に関する基盤研究の実施を目的としている。</p> <p>ほぼ当初の目標が達成され、研究成果の公表も積極的になされており、今後は、汚染物の処理・処分に本研究成果が実際に活用され、事故現場サイドからその評価がなされていくことが望まれる。</p>